

(平成18年度)

2-2 水道事業の概要

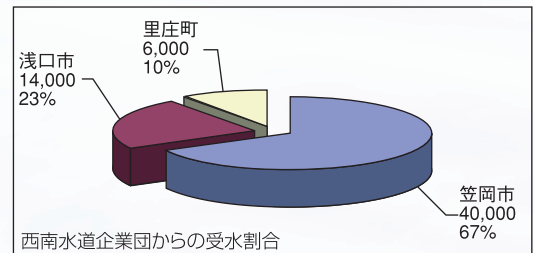
■上水道事業

笠岡市の水道事業は、昭和25年に市民生活の安定と笠岡市の都市化への対応を図ることを目的として創設されました。

昭和29年からは市街地の一部に給水を開始しましたが、瀬戸内海特有の温暖小雨の気候や、給水人口の増加により慢性的な水不足に悩まされてきました。こうした課題を解決するために笠岡市・鴨方町（現浅口市）・里庄町・寄島町（現浅口市）の1市3町で岡山県西南水道企業団を設立し、昭和47年に共同導水路による導水を実現しました。現在は笠岡市に配水する全ての水を岡山県西南水道企業団から受水しています。

市民の最大の課題であった『水の確保』が解決したことから、年次的な拡張事業を実施し「市民皆水道」の実現に努めてまいりました。今日では陸地部はもとより、本市最南端の六島まで笠岡市全域を給水区域として給水を行っています。

計画給水人口	65,000人
現在給水人口	55,824人
計画1日最大給水量	40,000m ³ /日
実績1日最大給水量	19,111m ³ /日



■離島水道

島嶼部は有人7島を含む30有余の島々が点在し、約2,700人の住民が生活しています。

7島の住民にとって、水不足は立地条件の宿命として半ばあきらめていました。しかし社会情勢の変化、生活水準の向上により水需要は増加の一途をたどり、島嶼部における水不足は加速度的に深刻さを増していました。水の確保が島の住民にとって何よりも緊急の課題となっていました。

こうした中、昭和48年に離島振興法が改正され、離島への水道管布設事業が国・県の補助対象事業となりました。そこで笠岡市では昭和50年度から笠岡諸島簡易水道事業に着手し、7年の歳月と27億円の巨費を投入して、昭和57年3月に離島への水道布設事業を完成させました。こうして高島・白石島・北木島・真鍋島・小飛島・大飛島及び六島の7島への海底送水管による本格的な送水が開始されました。

